

意見書

平成17年 2 月 3 日

武庫川流域委員会委員長
松本 誠 様

大阪市在住 疋島 巖

2月8日に第1回川づくりとして、地球温暖化と異常気象についての勉強会を開催されるというご案内をいただいたのですが、残念ながら参加できません。

そこで、意見を述べたいと思います。地球温暖化と気象関係との相関は、現時点では、まだ明確になっていないとの見解が環境省および独立行政法人国立環境研究所から平成17年1月27日に公表されています。

地球温暖化による降雨を加味する場合、基本高水の増加になり、安全側予測として、ダムありきの結論になるのではないかと懸念しています。既往最大水量での議論か、予測最大水量かの議論の基本となるのではないのでしょうか。

河川管理者からの提供資料を基に議論することは、ゼロからの議論では内容に思います。もちろん河川管理者の資料は必要ですが、今の委員会運営では、委員会が独自に基本高水を決めたことにはならないのではないのでしょうか。委員会の専門家を中心に検討することが理想ではないのでしょうか。

それから、議論がされていないようようですが、温暖化による海面上昇は、IPCCの第3次報告では、<http://www-iam.nies.go.jp/impact/4/4-8.html>の参考資料にありますように、2100年の最大値で88cm、中央値で48cmとなっています。海岸の堤防の嵩上げや高潮対策の検討が必要になると思います。委員会でそこまでの議論がされるのでしょうか。

また、以前から委員会場で発言しておりますが、基本高水以外の環境、水面利用等の資料を各委員に配布し、あらかじめ検討していただく必要があると思います。必要であれば第4回リバーミーティングの場で発言させていただきます。